① ふるさとへの渡航費を補助

３月17日（月）、町長室で、昨年11月の台風30号で大きな被害を受けたフィリピン中部のレイテ島出身の町民、佐藤クリスティンさん（矢の沢）、阿部ヴィクトリアさん（新町）が、被災したふるさとに一時帰国するための渡航費の贈呈式が行われました。これは２人がふるさとに帰り、家族や親戚に会えるようにと町が補助することを決定したものです。２人は、３月20日にフィリピンに向けて出発しました。

② 真室川中学校卒業式

３月16日（日）、真室川中学校（校長：三上準一、生徒数201名）で第31回卒業証書授与式が行われました。真室川中学校と及位中学校が統合されて初めての卒業生代表の西田裕志さんは、答辞の中で、中学校統合を経験し、みんなが一つになり、仲間であることを強く実感した学校生活であったことを述べました。75名の卒業生は、それぞれの思い出がいっぱい詰まった学び舎を後にしました。

③ 鮭の稚魚を放流

３月12日（水）、真室川小学校（校長：斎藤秀二）の１年生43人が安久土橋下の金山川に鮭の稚魚を放流しました。これは最上漁業協同組合の協力で鮭の稚魚を提供いただき、毎年実施しているもので、今回放流したのは５㎝ほどに育った稚魚約10,000匹。児童たちは4、5年後に生まれた川に戻ってくるとの説明を受け、「元気で帰ってきてね」と鮭との再会を楽しみに稚魚を放流していました。

④ 老人クラブ輪投げ大会

２月21日（金）、毎年恒例となった老人クラブ連合会（会長：髙橋美津雄）の輪投げ大会が、イベントハウス遊楽館で開催されました。各地区から約221名が集まり7組に別れて、一人ひとりが的に向かって輪投げをしていました。集まる度に練習をしている地区もあるそうで、今年も熱い戦いを繰り広げました。

最高点を出したのは、梁瀬幸子さん（南町明朗会）で、660点でした。

⑤ 子育てに一役、気軽に参加　遊びの広場

３月13日（木）、ふれあいセンター安楽城で、あんよの会が開催する（代表：佐藤令子）遊びの広場が開催され 11人のお子さんが参加しました。遊びの広場は、未就学児を対象に３地区で合わせて１年５回開催。保護者や家族と一緒に参加します。自由に遊ばせながら保護者の交流、子育てについて語り合える場です。ぜひ、足を運んでみてはいかがですか。

⑥ エコキャップ贈呈式

真室川小学校と真室川高校より、山形銀行真室川支店にエコキャップの贈呈がありました。真室川小学校からは、運営員会の杉山凛君、田中紫さん、三宅真央さんが訪れ、昨年の４月から集めたエコキャップの贈呈を行いました。真室川高校からは、保健委員会の斎藤ひかるさん、佐藤妃里子さんが訪れ、6,453個のエコキャップを贈呈しました。

第73回秋山スキー大会開催！ 3月2日

３月２日（日）、秋山スキー大会が開催されました。県内から集まった200名の選手が秋山クロスカントリーコースを舞台に熱戦を繰り広げました。

大会結果（町内の10位以内の選手、チームのみ掲載）※敬称略

●小学女子５年２㎞クラシカル
１位　小座間日翔（真室川スキースポ少）
３位　佐藤　歩惟（真室川スキースポ少）
９位　佐藤　奈央（真室川スキースポ少）

●小学女子３・４年２㎞クラシカル
６位　佐藤　　雫（真室川スキースポ少）

●小学男子６年３㎞クラシカル
１位　藤田　登摩（真室川スキースポ少）
９位　大場　岳竜（真室川スキースポ少）

●小学男子５年３㎞クラシカル
１位　庄司　康平（真室川スキースポ少）

●小学男子３・４年３㎞クラシカル
２位　佐藤虎太朗（真室川スキースポ少）

●中学校男子６㎞フリー
１位　佐藤　　凌（真室川中）
８位　齊藤　拓斗（真室川中）

●小学女子リレー（４人×２㎞フリー）
６位　真室川スキースポ少
１走　小座間日翔　２走　佐藤　歩惟
３走　佐藤　奈央　４走　佐藤　　雫

●小学男子リレー（４人×３㎞フリー）
３位　真室川スキースポ少
１走　藤田　登摩　２走　庄司　康平
３走　佐藤虎太朗　４走　阿部　一瑳

町長コラム　ふるさと納税

ふるさと納税が始まって６年目にして当町の実績はうなぎのぼりに上昇しており、担当課職員は恵比須顔で対応に追われている。

出身地、思い出の場所、興味のある自治体に「寄付」することができ、その用途を指定できたり、金額に応じてお礼の品を進呈したりする自治体が数多くある。

また、納税することで〝ふるさと〟と新しい関係づくりを促進する制度である。

昨年度は、件数が42件、金額が１４３万円で最高であったが、今年度は３月17日で件数が８５６件、金額が９２４万円（申し込み数）と大躍進している。

要因は、特典の品数を増やし、６段階に改め、カタログをリニューアルしたことがあげられる。１００万円以上の寄付者は、一日町長が体験できる。

一日町長体験については、２度テレビの取材を受け４チャンネルで取り上げられた。未だ応募はないものの、職員のアイデアが高く評価されたものと考える。

自分で税金の使い道が決められることも関心が高く、「町の取り組みに賛同する」、「いつか、真室川町を訪問してみたい」などが寄せられている。特典のほとんどが町産品であることも高く評価されている。今後も産品増を図り、町外の方々へ町の魅力を発信していく。

真室川町長　井上　薫